

## 情 報

### 1 学習指導と評価の改善・充実

#### (1) 目標と指導内容との関連を十分に図った指導計画の作成

共通教科「情報」の目標は大きく4つに分けられる。

4つの目標については、高等学校教育課程編成・実施の手引（平成21年度）P76にて解説

- ア 情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させる。
- イ 情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
- ウ 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。
- エ ア、イ、ウを通じて、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

これら4つの目標を相互に関連付けながら、情報化した社会の構成員として必須の素養である「情報活用能力」を確実に身に付けさせる教育の実現を目指す指導計画を作成する必要がある。

#### (2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

学習評価は、生徒が共通教科「情報」の目標に照らしてその実現状況を見ることが求められるものであり、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。

特に、共通教科「情報」の指導に当たっては、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価が、日常の授業において適切に実施されるべきである。

### 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

#### (1) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導

ア 各科目の指導に当たっては、体験的な学習を重視し、学習活動を通して身に付けた知識と技能を生徒の学校生活や社会生活で生きて働く力として、様々な場面で活用できるようにしなければならない。そのためには、情報の特徴やメディアの意味、デジタル化の仕組みについて、簡単なコンテンツを作成させるなど、学習内容に応じた実践的・体験的な学習活動を取り入れるなどして、生徒にとって身近な生活場面と関連付けたりしながら指導することが極めて重要である。

イ 生徒の言語活動を充実するため、望ましい情報社会の在り方、情報技術の適切な活用、情報技術の進展及び情報モラルなどについて、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う学習活動を取り入れ、言語などを活用して、新たな情報を創り出したり、分かりやすく情報を表現したり、正しく伝達したり、他者と共同して問題を適切に解決したりするなどの学習活動を重視する必要がある。

#### (2) 指導と評価の計画の実践（例）

「高等学校教育課程編成・実施の手引」では、平成23年度に「社会と情報」の年間指導計画（例）、平成24～25年度に「社会と情報」の大単元「2 情報通信ネットワークとコミュニケーション」と大単元「4 望ましい情報社会の構築」に係る「指導と評価の計画（例）」をそれぞれ掲載した。本手引では、「社会と情報」の大単元「1 情報の活用と表現」についての実践（例）を示す。

【科目名】 社会と情報

【単元名】 1 情報の活用と表現 ア 情報とメディアの特徴

【単元の評価規準】

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
情報とメディアの特徴に関心を持ち、積極的に情報機器や素材を利用して、情報を分かりやすく伝達しようとする。	情報とメディアの特徴を踏まえて、伝えたい情報を分かりやすく表現している。	コンピュータや情報機器を活用し、伝えたい情報を分かりやすく表現するための技能を身に付け、活用することができる。	情報メディアの特性を理解している。

【指導と評価の計画】

時 限	学習活動		評価規準との関連				評価の方法
	教師の活動	生徒の活動	ア	イ	ウ	エ	
1 【展開1】	○対象とする出来事がどのような情報メディアでどのように報じられたかを考える。 ・ニュース素材「2020年東京オリンピック開催決定」を報じるテレビやラジオを全体に見せる（聞かせる）。 ・新聞と週刊誌の記事や、ブログやツイッターの書き込みを印刷したものを配布する。	・テレビを見たりラジオを聞いたりしながら、考察した内容をワークシートに記入する。 ・印刷物を読み、考察した内容をワークシートに記入する。	①				ワークシート
2 3 【展開2】	○グループをつくり、前時に考察した内容を相互発表して共有し、全体発表のための資料を作成する。 ・グループによる考察内容を共有させ、スライドや発表原稿などを作成させる。	・グループ内で各自が考察した内容を発表し、意見を集約して、それを基にスライドと発表原稿を作成する。		③			
4 【展開3】	○全体発表と学習内容の振り返り ・発表と質疑応答をさせる。 ・この単元で学んだことや身に付いたことをレポートにまとめさせる。	・発表を聞き、表現メディアの特性を踏まえて情報メディアがどのように伝えているかを整理する。 ・情報メディアと表現メディアについて知り得たことや感じたことをレポートにまとめる。	④ ⑦	⑤	⑥		作成物と発表の評価  レポート

評価規準の丸数字は、P71の中単元における観点ごとの評価の総括の丸数字と連動している。

【学習指導計画】

教科・科目名 (使用教科書)	共通教科：情報 科目：社会と情報 (社会と情報/〇〇出版)	教科担任	○ ○ ○ ○
授業日時・教室	平成〇〇年〇月〇日 (〇) ○校時・PC教室 平成〇〇年〇月〇日 (〇) ○校時・1B教室 平成〇〇年〇月〇日 (〇) ○校時・PC教室 平成〇〇年〇月〇日 (〇) ○校時・PC教室	対 象	1年B組 (40名)
単 元	第1章 情報の活用と表現 1節 情報とメディアの特徴 3 様々なメディア		
本学習の目標	様々な情報メディアの特性について理解する		
項 目	学 習 活 動		
	学習内容 (教師の活動)		生徒の活動
1 時 限	【導 入】	・前時の復習	・情報メディアの種類について確認する。
	【展開1】	・ニュース素材「2020年東京オリンピック開催決定」を報じるテレビ(ビデオ)、ラジオ(録音)を全体に見せる(聞かせる)。 ・新聞、週刊誌、ブログ、ツイッターでの記事を印刷したものを生徒に配付する。	・テレビ・ラジオを見ながら(聞きながら)、考察した内容を、ワークシートに記入する。 ・印刷物の全てに目を通し、考察した内容を、ワークシートに記入する。

2・3 時限	【展開2】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考察した内容を共有させる。</li> <li>・全体発表のための資料を作成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ（4～5名）を編成する。考察した内容を互いに発表し合う。</li> <li>・発表をまとめて、全体発表のための、スライドと発表原稿を作成する。</li> </ul>
4 時限	【展開3】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をさせる。また質疑応答により考えを深めさせる。教師は考察の観点に漏れがないかを判断し、あれば改めてその観点について考える時間をとる。</li> <li>・単元を通して学習した内容と、自分の身に付いたことをレポートにまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表を聞き、表現メディアの特性を踏まえ、情報メディアがそれをどのように活用しているかを整理する。</li> <li>・情報メディアと表現メディアについて知り得たこと、感じたことについてレポートにまとめる。</li> </ul>

### 【言語活動の充実の工夫】

生徒が慣れ親しんでいる情報メディアに「テレビ」があるが、その「正しい見方」、「情報との正しい接し方」などについて体系的に学ぶことはない。実践（例）では、大きな出来事（オリンピックやワールドカップといったスポーツの祭典）について、テレビや新聞、ラジオ、週刊誌及びインターネットなどの報じ方の違いを読み解き、同じ素材がどのように編集されて受信者に届くかを考えさせ、情報メディアによって受け止める印象に差異が生じることを体験させる。その過程において、次の手順を踏む。

- ア グループとしての情報収集に全てのメンバーが主体的に関われるように計画的に進める。
- イ 全ての情報源に全員が接し、自分の意見を整理して記述し、発表に備える。
- ウ グループの中で意見を集約し、グループとしての意見を整理して記述する。
- エ 発表のための資料・原稿などを整理する。
- オ 発表し、また発表を聞き、質疑応答で理解を深める。

自分の意見を整理し、グループ内で交換する中で、自分とは異なったものの見方、対立する意見などがあることも考えられるが、相互の主張を論理的に展開する中で、問題点を浮き彫りにし新たな課題として捉えられればよい。なお、一つの意見にまとめることを最終目標とするわけではないことに留意する。



また、最終的なグループの発表の場では、図や映像、音声などを含め、自分たちの意見が聞き手にどのように伝わるか、正しく伝えるためにはどのような工夫が必要かを考えて改善させる。これは、素材としたテレビ番組や新聞記事が編集される際に行われていることであり、自分たちの主張を受信者に肯定的に受け止めてもらうためには、情報の受信者の分析から表現の工夫、発信のタイミングなども含めた極めて戦略的なものが必要であることに気付かせたい。また同じ情報メディア（例えば新聞）でも、発信者が異なれば記事から受ける印象が異なることなどにも気付かせたい。

【展開1におけるワークシートとその評価のポイント】

情報メディアの特性ワークシート

〇年〇組〇〇番

オリンピック開催地が東京に決定したのは2011年9月8日午前5時20分（日本時間）

①全てのメディアについて目を通し、「気付いたこと・受けた印象」の記述があるので評価を「A」とした。

情報メディア	使われている表現メディア	情報発信日時	気付いたこと・受けた印象
テレビ	動画、音声、文字、図形	9月8日 午前5時20分	東京に決まった瞬間のみんなの笑顔と喜びがいきいきと伝わった。盛り上がりがあるのがすごいと思った。「お・も・て・な・し」の人の笑顔が印象的だった。
ラジオ	音声	9月8日 午前6時	実況アナウンサーの興奮したしゃべりと、冷静にニュースを読むアナウンサーのしゃべりの違いが面白かった。
新聞	文字、写真、図形	9月8日 夕刊（午後5時頃）	オリンピック開催地が東京に決まるまでの過程がよく分かった。会場予定となる施設の地図が分かりやすかった。今後の課題についても書いてあった。
週刊誌	文字、写真、図形	9月16日	前回にオリンピックが開催された1964年の東京と今の東京を比較した記事が面白かった。関係者へのインタビューや裏話など、他のメディアにはない記事が多かった。
ブログ	文字、写真	9月10日	東京に決まったのが残念だ」という意見が意外だと思った。

②情報メディアの特性に着目した記述が、この1ヶ所なので評価を「B」とした。例えば、テレビは「映像の特性」、新聞は「記録性・保存性」といった各情報メディアの特性に着目した記述がある場合は、評価をAとする。

【観点別学習状況の記入方法】

- 「十分満足できる」状況と判断されるもの：A
- 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B
- 「努力を要する」状況と判断されるもの：C

【関心・意欲・態度】： **A** 【知識・理解】 **B**

評価コメント：

情報の内容に対する感想ではなく、使われる表現メディアによる情報の受け取り方や印象の違い、速報性と取材時間の関係、記録性や保存性についての記述があれば更に良くなるでしょう。

評価コメントを読んで振り返ってみよう：

テレビは映像があったから興奮が伝わったし、ラジオは声だけなので興奮はイマイチでした。テレビやツイッターは速報性があると思いました。記録性や保存性は新聞だと思います。

生徒が教師からの評価コメントを読んで、自身の学習活動を振り返るための記述欄を設けた。記述欄を設けることで、評価がCの生徒に対する「指導の手立て」の一環となる。

【展開2におけるワークシートとその評価のポイント】

グループ発表の記録シート

〇年〇組〇〇番 氏名 Eさん

情報メディア	発表内容の要旨				
	K君	Sさん	Y君	Uさん	Mさん
テレビ	決定時の状況がよく分かった。	映像で、決定が喜ぶ人々の様子がよく分かった。	人々の表情が映像で映し出され	会場の雰囲気がよく伝わった。	
ラジオ	実況とニュースでしゃべり方が違う。	移動中の車などでも聞くことができる。			
新聞	細かな情報まで伝えている。	図や写真で細かな情報がされている。			

【グループ発表の評価の考え方】

発表者ごとに各メディアの欄の記入があり、さらに各メディアの違いが記述されている場合は、評価Aとする。  
発表者ごとに各メディアの欄の記入がある場合は、評価Bとする。  
発表者ごとの各メディアの欄の記入が一部抜けていたり、全く記述されていない場合は、評価Cとする。

評価	B	A	A	B	
評価	B	A	A	B	
評価	A	A			
評価	B				

③K君の相互評価の結果はB、A、BとBが半数以上なので、K君の評価を総括すると「B」となる。

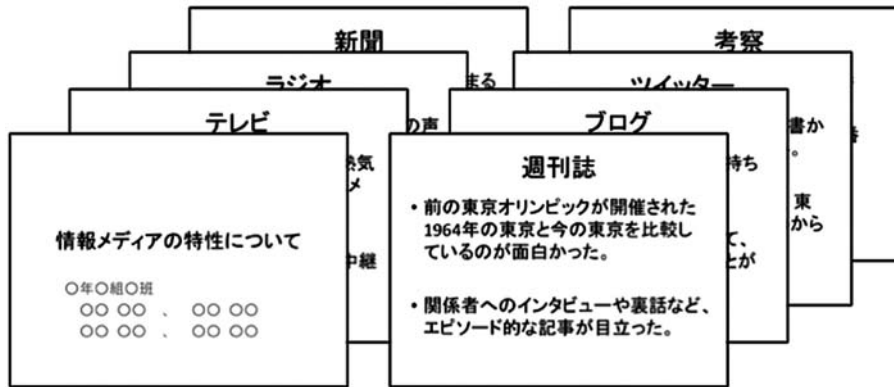
【グループ発表の評価の総括の考え方】

評価の結果がAとBのみでAが半数以上の場合はAとし、その他はBとする。  
評価の結果がBとCのみでBが半数以上の場合はBとし、その他はCとする。  
評価の結果がAのみの場合はAとする。  
評価の結果がBのみの場合はBとする。  
評価の結果がCのみの場合はCとする。  
なお、評価結果にAが1個とCが1個ある場合には、Bが2個あるものと見なす。

グループ発表の評価の総括（グループN.01）

	Kくん	Sさん	Yくん	Uさん	Mさん
評価	B	A	A	A	B

【展開2におけるスライド】



【展開3における発表評価用紙（教師用）】

班員と協力して発表に臨んでいるか	B	④	B
積極的に発表しようとする姿勢があるか	B		
情報メディアと表現メディアの特性を踏まえた発表内容であるか	A	⑤	A
伝えたいことがスライドに分かりやすく表現されているか	B		
発表原稿は分かりやすい表現であるか	A		
クリップアート等を用い、分かりやすく表現する工夫をしているか	C	⑥	B
アニメーション等を用い、分かりやすく表現する工夫をしているか	B		


【展開3におけるレポートとその評価のポイント】

「情報とメディアの特徴」を学んで ○年○組○番 氏名 \_\_\_\_\_ K \_\_\_\_\_

今回の授業で、情報メディアが様々な表現メディアの特徴を生かして情報を伝達していることがよく分かりました。例えば、テレビは動画の「人やものの動きを伝えるのに適している」という特性を利用しているし、新聞は文字の「詳しい説明に向いている」という特性を利用しています。

また、ツイッターやブログのような速報性が高いメディアよりも、ある程度時間がたってからの情報メディアの方が、より詳しい情報が載っていました。これは取材時間が十分にとれるからだと思いました。

最後に、ある程度の速報性がある、ある程度詳しいことが分かって、そして何よりも選手や応援している観客の興奮が一番伝わるテレビが、メディアとして一番優れていると思いました。

 ⑦情報メディアの性質の違いについて言及されているが、自らの発表したことによって身に付いたことについて触れていないので評価は「B」とした。

【関心・意欲・態度】： **B**

(3) 中単元における観点ごとの評価の総括の具体例

平成25年度高等学校教育課程編成・実施の手引p73の「3 観点別学習状況の観点別の総括」に基づき、生徒が記入したワークシートや作成物などの評価から、中単元における観点ごとの評価の総括の具体例を次に示す。

なお、教師がこの評価の総括を確認することで、生徒全体の学習到達状況を把握することができ、特に評価Cがあった場合には、指導方法や内容、教材などの見直しを行うことで、授業の改善に役立てることができる。

時限【展開】	評価			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1 【展開1】	①A			②B
2・3 【展開2】		③B		
4 【展開3】	④B⑦B	⑤A	⑥A	
中単元1(ア)の総括	B	A	A	B

**【評価の総括の考え方】**

観点別評価の結果がAとBのみでAが半数以上の場合はAとし、その他はBとする。

観点別評価の結果がBとCのみでBが半数以上の場合はBとし、その他はCとする。

観点別評価の結果がAのみの場合はAとする。

観点別評価の結果がBのみの場合はBとする。

観点別評価の結果がCのみの場合はCとする。

なお、同一観点に関わる評価規準の評価結果に、Aが1個とCが1個ある場合にはBが2個あるものと見なす。

大単元や学期末、学年末における観点ごとの評価の総括と評定への総括の具体例や他の【評価の総括の考え方】は、「高等学校教育課程編成・実施の手引（平成25年度）」p 73の「3 観点別学習状況の観点別の総括」を参照すること。

**Topic****ネット依存****◆ 「ネット依存」とは**

スマートフォンをはじめとする情報機器の普及により、いわゆる「ネット依存（インターネット嗜癖）」が問題となっている。

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピュータや携帯電話が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」と定義される\* こともあるネット依存の傾向は、生徒の間でも広まっており、全国で約52万人の中高生が病的な使用傾向にあると推定する調査もある（\* Young K, CyberPsychol Behav, 1998）。

**◆ 「ネット依存」の未然防止のために**

ネット依存を未然に防ぐため、自分の健康や社会について意識しながら、情報メディアとの関わり方を考えさせる教材が「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き」で紹介されている。

本書では「身近にひそむネット依存」と題して、動画を視聴しワークシートに記入させていく指導案が示されている。

また、「ネット依存度テスト」という8つの質問事項が紹介されており、学級の状況及び社会的動向を踏まえて、授業の中に盛り込むことも可能である。

**【ネット依存度テスト】**

- 1 インターネットに夢中になっていると感じているか？
- 2 満足を得るためにネットを使う時間を長くしていかねばならないと感じているか？
- 3 インターネットの使用を制限したり、利用時間を減らしたり完全にやめようとして失敗したことがたびたびあったか？
- 4 インターネットの使用時間を短くしたり完全にやめようとして、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、イライラなどを感じるか？
- 5 使い始めに意図したよりも長い時間オンラインの状態にいるか？
- 6 インターネットのために大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくするようなことがあったか？
- 7 インターネットへの熱中のしすぎを隠すために、家族、教師やそのほかの人たちに嘘をついたことがあるか？
- 8 問題から逃げるため、または絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、インターネットを使うか？

**<参考サイト>**

情報化社会の新たな問題を考えるための教材・指導の手引書～安全なインターネットの使い方を考える～

[http://jouhouka.mext.go.jp/information\\_moral\\_manual.html](http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html)

<http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/jouhoukyouzai/index.html>